

2020年12月15日(火)

### サケの飼育をはじめました

毎年、旭川では当番をきめて、恵庭市までシロザケの卵をとりに行っています。

今年の当番の人は12月15日に卵をとりに行きましたが、大雪の日だったので、恵庭市にいくだけで片道4時間かかったとのことでした。

おつかれさまです。  
ありがとうございました。



わたしたちの発眼卵400粒 (14日までの積算温度は372.6℃)

「サケ飼育室」と看板のついた倉庫でそだてます



この卵は後日、幼稚園と動物園にもっていきます。



2020年12月16日(水)

### 幼稚園でも飼育がはじまりました

今年は北海道教育大学附属旭川幼稚園でもサケをそだててくれることになりました。

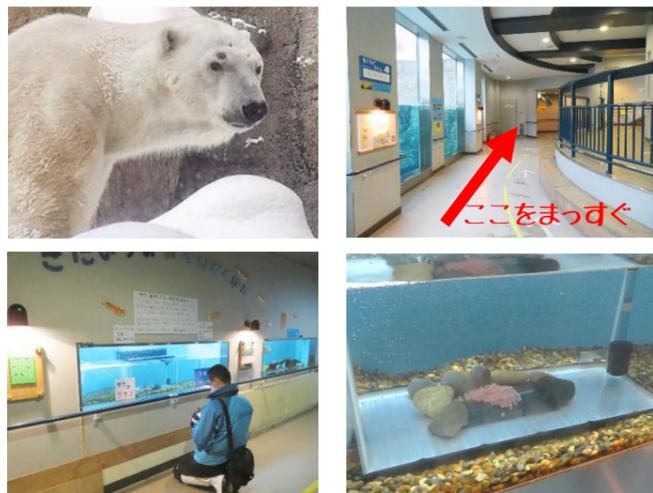


初めてみるサケの卵にきょうみしんです。

2020年12月17日(木)

### 動物園でも飼育がはじまりました

うれしいことに旭山動物園でもサケをそだててくれることになりました。場所は「ほっきょくぐま館」の水槽です。今年は、みなさんにもサケの成長をみてもらえます。



2020年12月21日(月)

### 幼稚園の卵がふ化しました

2つの卵から、サケの赤ちゃんができました。こんなにはやく「ふ化」するとは思っていませんでした。サケに詳しい佐藤園長先生もビックリしています。

そのようすは幼稚園のフェイスブックで見られます。  
<https://www.facebook.com/hue.asafuyo>



幼稚園がおやすみになる前に、できてくれたのかな。

2020年12月26日(土)

### 動物園もふ化がはじまりました

卵からできてしばらくの間は、からだがスケスケで心臓もみえるのです。動物園のフェイスブックにはサケの写真や動画がのっています。

<https://www.facebook.com/asahiynamazoo>



サケ 卵からふ化 仔魚から稚魚へ  
この水そうでは、サケを卵からふ化させて仔魚から稚魚までの成長の様子と展示しています。そして成長した稚魚を川へ放流します。放流された稚魚は、川を下り海へ出て大きくなります。数年後成長したサケは産卵のために川に戻ります。サケが生まれた川に戻ってくることを母川回帰と言います。



私たちのサケは12月25日にふ化しました。